

まとめ

- 受療行動調査を用いて、日本のがん患者のQOLを評価する方法を開発し、H23年度受療行動調査の解析を行った。
- 受療行動調査と一般市民の結果を比較した結果、からの苦痛、痛みでは外来がん患者と一般市民ではあまり差がなかった。
- 受療行動調査は全国からの代表性を持つデータとして経時変化の測定には有用な可能性があるが、限界も多く、がん対策の評価には他の調査も並行して行う必要がある。

日本癌治療学会学術集会 COI開示

筆頭発表者名：宮下光令

私は今回の演題に関して開示すべき
COIはありません。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
	なし						

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	なし				

研究成果の刊行物・別刷

なし

